



44

星川 広和氏

コンピュータシステム研究所
 (仙台市、長尾良幸社長)は、住宅
 プレゼンシステム「ALTA」
 (アルタ)に、木拾いと建材拾い
 機能を付加し、全国の建築業界の
 ほかにプレカット工場や建材販売業
 等の流通分野にも幅広く展開して
 いる。

現在注目されているシステムは、設計士の
 のが、同社が提供して 星川広和氏(CST構
 造設計顧問)が、経験
 1を持つ木造建築物と知識を基に開発し
 造計算システム「KI」だ。星川氏は、近年の
 ZUKURI」だ。同 住宅設計に伴う課題を



星川氏

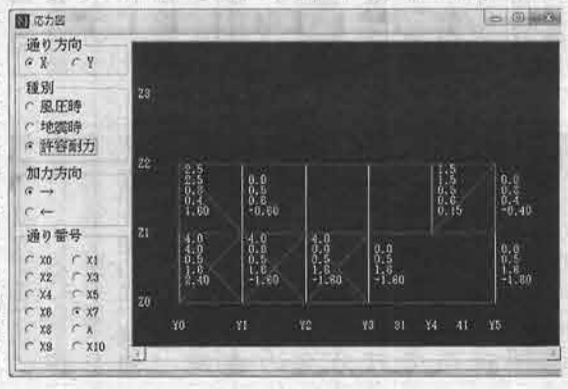
KIZUKURIの最終型に注目

構造計算しやすいソフト開発を

解決する使いやすい 枠組壁工法版があり、 造軸組構法住宅の許容 時点での最終型だ。そ
 システム作りを進めると ユーザーの要望に応え 応力度設計(2017 のため、現在の設計基
 ともに、構造計算の進めるとともに、目的に合 年版、グレー本)に 準への対応とともに、
 きる人材が少ないこと わせてKIZUKURI 対応したほか、視覚的 使いやすいさを追求し
 から、セミナーで設計 Iを進化させている。 な確認ができる機能等 た。設計基準では、17
 士のスキルアップや育 このため、便利さや使 を追加し、より分かり 年版の木造軸組工法に

成に努めている。同シ いやすさから、構造計 やすく使いやすいシス おける住宅の許容応力
 ステムは軸組工法版と 算を主な目的とする設 テムにしている。 度設計への追加対応と
 計士のユーザーが増え 新システムの開発と して、階高が高い建築
 ている。 ともに、これからのK 物での筋違の低減率と
 KIZUKURI IZUKURIの展開 偏心率の計算方法に対 ほか、計算過程(バラ
 は、6月に最新となる について星川氏は「今 応している。また、水
 Ver7.7を発表。 回のVer7.7は、 平構面の応力図の画面
 同バージョンでは「木 KIZUKURIの現 表示として、床構面の

図、M+図 を画面に表 示できるよ うにし、せ ん断力やモ ーメント力 の大小を視 覚的に確認 できるよう にした。使 いやすさの 点では、構 造初心者で も直感的に 分かるグラ フィカル・ インターフェースで操 作を簡単にした。この 加から言えるのは、現 在の住宅需要を基に設 計する住宅の変化だ。 都心部は住宅の高層化



KIZUKURIの画面

や耐火建築物を考慮し 形も考えられる。建築
 て設計しないといけな 物の用途としては民泊
 いことになっている」 の利用も高まり、建物
 とバージョンアップの に対する安全性も求め
 内実を語った。 られるようになる。こ
 Ver7.7は、こ のため、構造計算の必
 のほかにも金物自動算 要性が高まり、誰でも
 定の強化、アンカーボ それができる環境を整
 ルトのせん断力の検 えなければならぬ。
 定、スラブ配筋にD16 私はこれらの流れに対
 を追加、個別計算の部 応できるようにKIZ
 材を判別表記するなど UKURIを進化させ
 の機能が追加され、さ ていく」と話した。

さらに青本の廃止(機能 星川氏は、現在不足
 削除)もされている。 している木造建築の設
 さらに星川氏は「日 計士の育成も考えてい
 本では木造住宅、建築 る。ユーザーを対象に
 物の需要が変化してい KIZUKURIを使
 る。高層化、耐火、中 いこなすセミナーのは
 大規模などから枠組壁 か、設計士が学べる機
 工法、金物工法など構 会を増やし、理解度の
 造的な変化を経て、今 向上にも努めていく考
 後は木構造で混構造の えだ。